



# 区のお知らせ

## 足立区

足立区千住一丁目50  
☎(882) 1111  
編集・発行/足立区役所

1 面  
同和問題を正しく理解しよう  
2 面  
差別に生きる一人が歩んだ  
みち



部落の全部が襲撃された群馬の世良田村

## 同和問題を正しく理解しよう

部落差別とか、同和問題といっても、正しい知識をお持ちの方は、今でも少ないかも知れません。部落?何んのことかと、初めて聞かれる人もまだあるかも知れませんし、大体の人にとっては、区内にいまも現実にある差別について良く知らない……というのが現状なのかも知れません。「区のお知らせ」には、毎号部落問題の理解のためにというコラムをのせていますが、人権週間の際に、部落問題についてももう一度考えてみましょう。

部落問題を下手にとり上げると、かえって何も知らない人に知らせる結果になるという意見があります。しかし、これまでもそうだったように、そっとしておいても差別はなくなるものではありません。また、わたしは差別していない。というだけでは、差別をしていないことにはなりません。

部落差別があつてはならないと考えるだけでは、差別をなくすために何かをするのではなく、温存するに手をかけていることになるのです。部落差別が、いまなおあることについて、信じない人がいます。明治大正ならばともかく、戦後の日本では、もう差別などは完全になくなっているだろうと考えているのです。

差別とはなにか 本質的に理解を 部落差別というと、たいていの人は、差別用語で人を指したり、身ぶりで差別することと考えています。もちろんこれは差別です。しかしむしろこの行動をとらせた本質的なものについて考える必要があります。先に記したように部落は、政治が一段低いものとして、悪い環境においたものです。それが今もなお放置され、悪いままにされているのです。しかも、その結果世の中の人は、その人自身が悪いように思っているのです。部落問題は、教育を受ける権利、労働する場を奪ったことが、原因なのです。だから人の嫌がる仕事につき、賃金も低くならざるを得なかった。

### 部落はこうして作られた

いつい部落はどうして出来たのでしょうか。それは政治的、人為的に作り出されたものなのです。

近世の諸大名は、領内の土地を持たない人を、農業に適さない所、例えば、河川敷、農地、低湿地、崖地などに集めて住わせ、皮革づくり、土木工事などに使役することとしました。そして移動を禁じて、ここに

### 明治の差別再編成

明治になって、太政官布告によって「エタ、ヒン等の称を廃され候べきこと」とされ、ここに建前のうで同等になりました。

しかし、その翌年、壬申戸籍という日本初の近代戸籍が作られました。ここには身分を記載されていた。また富国強兵の国策のため、

それがまた差別意識をかき立てたのは、差別された人たちは立つ瀬がないといえます。人は他人の不幸は見のがせる性質を持っていますが、部落問題も自分には、何のかわりもないことだと考えれば、このまま放置すれば、いつかはなくなることも、無関心でいられることも知れません。しかし私たちに、本当に無関係なことなのでしょうか。明治以降も差別が続いた原因の一つに、いつでも景気が悪くなると、首切りできる臨時工などの、産業予備軍としての部落があったのです。この人達のあり限り、私たちの生活は、相対的に低くなるのです。部落問題に本格的に取り組むことは、私達の生活を良くすることに必要ではないでしょうか。

部落を形成しました。江戸時代にはこれを法律化して、士、農、工、商エタ、非人の身分制も固定したので、この身分制度は、たんに部落差別を行なうことだけが目的ではありません。

当時圧倒的に多かった農民を、上手に管理することが必要だった領主は、「百姓とゴマの油は、しほればはるほど出る」という政策を進めるために、人は上を見て暮すな、下を見て暮せと、まだあの人達よりは良いという部落を作ったのです。

立地条件の悪い部落に、環境改善などの手はさしのべられませんでした。こうして明治維新のあと、部落差別はなくなりませんでした。

例えは、農村では農地を購入する金がなく、借りることも出来ませんので、農地を得ることができず、農民が農耕に適さないと捨てた土地を耕すばかりでありませんでした。一方、漁村では漁業権がなく、原始的方法でとるなど、部落漁民の生活保障はありませんでした。

むしろ逆に、職業が自由化され、皮革業のような利潤を生むものは、外部からの資本が入る結果となり、独占が失われ、ますます劣悪な条件に追いやられたのでした。

また平等によって、旧憲法のいわゆる三大義務とされる納税、兵役、教育は、まぬかれることができなくなり、一層貧乏への道をたどることになったのです。大正十一年三月三日京都岡崎公会堂で、水平社が創立されました。これは、部落解放運動が、同情やいたわりによるのではなく、部落自身力によって、解放をたたかいたる力ができるというものでした。こうして教育、戸籍、軍隊などで運動が行なわれました。しかし、群馬の世良田村のように、部落の全部が襲撃されることさえあり、学校へ行けない子供の多い部落の人には無学の人がありました。このため、就職も限られ、身体だけが、資本と

いった仕事にしかつづけず、つけないことから子供を働かすといった、悪循環が繰り返されました。

### 同和問題の解決は全行政の課題

さて差別の問題は、単に福祉や労働や教育といった専門分野で、解決出来る問題ではありません。私たち行政にとっても、全行政が一体となって取り組む課題となっています。そこで昭和四十年八月、国の諮問機関である同和对策審議会から答申が出されました。

この答申では、同和問題は憲法の基本的人権にかかわる課題であり、早急な解決こそ、国の責務であり、同時に国民的課題であるとしています。つまり、部落問題は行政の責任であり、すべての国民が積極的に解決しなければならぬ問題であると、述べているのです。

この答申をもとにして、国や都、区が実施している、いろいろな施策に対して特別法を定めた「同和对策事業特別措置法」が、昭和四十四年七月制定されました。そのおおよその内容は次のとおりです。

- (1) 国都府の同和对策事業について 目標と内容を明らかにし、事業に必要な経費を国が補助する。
  - (2) 事業が円滑に実施されるよう、この仕事に、国都府と国民の責務であると定める。
  - (3) 国都府の施策を具体的に定める
  - (4) この法律を十年間の期間有効なものとし、早く問題の解決をはかる。
- などです。これを受け足立区でも区内の実状の把握に努めるとともに、答申の主旨にのっとり、同和行政の推進にあたります。同和行政を推進することは、ひいては区民全体に対する行政の水準を高めることになることも十分理解され、今後の足立区を始め、国、都府の同和行政にご協力されるようお願いいたします。

# 差別に生きる 一人が歩んだみち



解放運動の集會

「この年になってみると、毎晩酒を飲まずにはいらなかった父のことを思い出してやりきれない生活から手をたずさえて抜け出すために何かしなければ」と思うのです。

こう語る鈴木さん(部落解放同盟足立支部書記長)の半生を通して部落差別を考えてみよう。

## このものころ

物心がついたとき、もう私は貧乏の中にいました。そしてこいつは、ずっと私につきまといて来ました。父は貨物駅の日雇いや、ブツカキ氷売り、引越しの手伝いなど、いろいろの仕事をしていました。まあ田舎の差別が嫌で、東京へ行けば何とかなるだろうと、十才で奉公したんですね。ところが学校へ行けず、口も重いのので、いつらくなって、店を出てしまし、山谷あたりを転々としていくうち、母と知り合っ一緒に住り昭和十年頃には男ばかり五人の子持ちだった、ということ。私はその長男でした。

## 嫌だったこと

学校へ行くのは好きでしたが、嫌なことはいくらもありました。どこかで女の子のシャツをもらって着ていましたから、体操の時に上着を取って言われること、それから、食事の時ですね。その頃、学校で飯を食べさせてくれました。二、三人いましたね。小使室でもらって、理科室で食べるんですが、何んだか恥ずかしくてね。四年の時、弟の父兄会に出ましてええ、親が出られないんで、私が出たんす。

「お前の弟は、もう一年勉強しないません。酒なんか止めてくれれば良いのにアー」と思いました。でもその酒、好きで飲んでいたんじゃないんです。やり切れないからなんすね。こんなことがありましたよ。母親と親父と私と三人で清掃作業員に雇ってほしいと、区会議員の所へ頼みに行つたんです。親父は口下手なので、私と母親が頼むわけですね。働けるようになりましてね、早く帰って来るんですよ。臨時ですけど、真面目にやると本雇になるかも知れんというところ。しかし二か月でやつぱり切れてしまつてね。それで明日から来ないでも良いといわれた日は夜飲んで来ましたよ。女房子供を働かせて、生活が苦しいんですから、東京でも田舎でも部落ということ、ついて廻つたんですね。

結局東京の差別は、表面からはわからななんです。汚ないとか、貧乏だとか、そんな所へ追いやられて浮かび上られない様、そんな形なんす。二年にはさせられん」と先生に言われましてね。涙が出そうになったのを、ぐっと我慢して、お前の家は」とためいきのように先生が言つたんです。

私は親父が帰って来るまでまつていましたけど、弟達は小さいから、待ち切れずに寝てしまふんです。勉強の時間がいわけです。私の勉強する時間は十一時でした。ええ夜のです。同級生が勉強したり、遊んだりする時間は、内職してました。印刷のインクのを洗う仕事です。身体よりも大きい缶をつみを運んで来て落とした洗うんです。これでヒルマを一升二十八銭で買つて、月に二十日もありましたかね。缶の合せ目に入るとインクがとれ

昭和二十一年の復員です。進駐軍の靴修理やなんかしていました。二十六年に浅草に戻りました。作るそばから売れるので、親父が仕事して欲しいに酒も飲ませますし、良い時代でした。ヒロポン打つて夜も働く奴がいましたよ。この時分には、部落の仲間、成功した人もいましたね。でも長続きしないんです。統かせる教育やなんかの力がないんでね。この頃に結婚しました。景気の良いはすく終つて、三十年には不況になり店がつぶれました。両親と分れて浅草で三畳の部屋を借りました。ひどい時代でした。女房が結核になり、続いて私も発病して、生活保護を受けました。都営住宅の空室に当せんしたのがその後です。入った住宅は、ひどい所で、引揚者住宅と近所の人がいついたぐらいです。昼も電灯が必要

軍隊にも差別が

尋常科を終るとすぐ小僧に行きました。もう一人他にいましたね。前借したようすです。というは、弟が後でやはり小僧に行き、嫌で泣いて帰って来たとき、そう話しているのを聞きましたからね。奉公先は浅草です。職人というより子守りが主でしたね。昭和十六年に徴用がでたので、親父と区内の軍靴会社に入りました。身体は楽になつたけど、給料を家

戦後になつて

昭和二十一年の復員です。進駐軍の靴修理やなんかしていました。二十六年に浅草に戻りました。作るそばから売れるので、親父が仕事して欲しいに酒も飲ませますし、良い時代でした。ヒロポン打つて夜も働く奴がいましたよ。この時分には、部落の仲間、成功した人もいましたね。でも長続きしないんです。統かせる教育やなんかの力がないんでね。この頃に結婚しました。景気の良いはすく終つて、三十年には不況になり店がつぶれました。両親と分れて浅草で三畳の部屋を借りました。ひどい時代でした。女房が結核になり、続いて私も発病して、生活保護を受けました。都営住宅の空室に当せんしたのがその後です。入った住宅は、ひどい所で、引揚者住宅と近所の人がいついたぐらいです。昼も電灯が必要

方得だから良いじゃないか。こんな気持ちだと思えますね。でもね、この話の中にはね、部落の人は安い賃金で働くのが当り前だという気持ちがあるんでしよう。これじゃアタまりませんよ。

世の中の仕組みが、部落は貧乏で当然、汚なくてあたりまえ、ということになつていよう。

その例にこんなことがあるんです。小春の東京拘置所に石川という人が入つて居るんです。吉展ちゃん殺しのすぐ後の狭山で中田善枝さんが殺された事件の犯人だとされているんです。

しかし資料では無実です。石川さんは部落の人だから人殺しぐらいするだろうと見込みでつかまえられるんです。ええ地裁では有罪でした。でも、石川さんが自白させられたことと事実が一致しないんです。

例えば、その日は雨が降っていたのに、外で殺された筈の中田さんの制服が少し濡れていないとか、靴下がきれいで靴下のまま歩かされたとは思えないとかいろいろです。

判決文にある小学校卒業せずして、少年時代を他家で過ごした石川さんのことは他人事とは思えないんです。こういう育ちだから何をするかかわらないと裁判所まで差別をしていると思ふんです。

今は私、独立してやっています。とにかくどうにかやっています。そこで、これからは差別のない世の中のために働きたいと思ひます。

この文は、鈴木さんに広報課が伺つて作ったものです。

狭山事件に思う

世の中の仕組みが、部落は貧乏で当然、汚なくてあたりまえ、ということになつていよう。

その例にこんなことがあるんです。小春の東京拘置所に石川という人が入つて居るんです。吉展ちゃん殺しのすぐ後の狭山で中田善枝さんが殺された事件の犯人だとされているんです。

しかし資料では無実です。石川さんは部落の人だから人殺しぐらいするだろうと見込みでつかまえられるんです。ええ地裁では有罪でした。でも、石川さんが自白させられたことと事実が一致しないんです。

例えば、その日は雨が降っていたのに、外で殺された筈の中田さんの制服が少し濡れていないとか、靴下がきれいで靴下のまま歩かされたとは思えないとかいろいろです。

判決文にある小学校卒業せずして、少年時代を他家で過ごした石川さんのことは他人事とは思えないんです。こういう育ちだから何をするかかわらないと裁判所まで差別をしていると思ふんです。

今は私、独立してやっています。とにかくどうにかやっています。そこで、これからは差別のない世の中のために働きたいと思ひます。

この文は、鈴木さんに広報課が伺つて作ったものです。

軍隊にも差別が

尋常科を終るとすぐ小僧に行きました。もう一人他にいましたね。前借したようすです。というは、弟が後でやはり小僧に行き、嫌で泣いて帰って来たとき、そう話しているのを聞きましたからね。奉公先は浅草です。職人というより子守りが主でしたね。昭和十六年に徴用がでたので、親父と区内の軍靴会社に入りました。身体は楽になつたけど、給料を家

軍隊も実力の世界じゃないんだなと思ひましたね。活路なんて簡単に求められないし部落の者は、どこ世界でも一番低いところにいるように、しむけるんですね。

戦友と一緒に訓練を受け、それが終ると靴の修理ですから、みじめでした。軍隊も実力の世界じゃないんだなと思ひましたね。活路なんて簡単に求められないし部落の者は、どこ世界でも一番低いところにいるように、しむけるんですね。

戦友と一緒に訓練を受け、それが終ると靴の修理ですから、みじめでした。軍隊も実力の世界じゃないんだなと思ひましたね。活路なんて簡単に求められないし部落の者は、どこ世界でも一番低いところにいるように、しむけるんですね。

狭山事件に思う

世の中の仕組みが、部落は貧乏で当然、汚なくてあたりまえ、ということになつていよう。

その例にこんなことがあるんです。小春の東京拘置所に石川という人が入つて居るんです。吉展ちゃん殺しのすぐ後の狭山で中田善枝さんが殺された事件の犯人だとされているんです。

しかし資料では無実です。石川さんは部落の人だから人殺しぐらいするだろうと見込みでつかまえられるんです。ええ地裁では有罪でした。でも、石川さんが自白させられたことと事実が一致しないんです。

例えば、その日は雨が降っていたのに、外で殺された筈の中田さんの制服が少し濡れていないとか、靴下がきれいで靴下のまま歩かされたとは思えないとかいろいろです。

判決文にある小学校卒業せずして、少年時代を他家で過ごした石川さんのことは他人事とは思えないんです。こういう育ちだから何をするかかわらないと裁判所まで差別をしていると思ふんです。

今は私、独立してやっています。とにかくどうにかやっています。そこで、これからは差別のない世の中のために働きたいと思ひます。

この文は、鈴木さんに広報課が伺つて作ったものです。